

第1章 滝尾駅を取り巻く状況

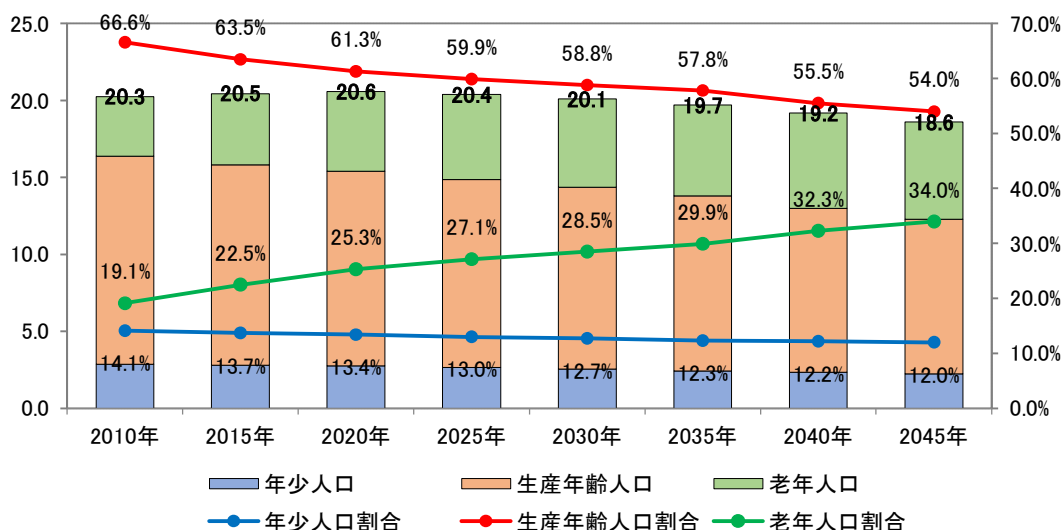
1. 滝尾駅周辺の概況
2. 滝尾駅の状況
3. 市民意向の把握

1. 滝尾駅周辺の概況

1-1. 人口動向

(1) 大分地区の人口推移

2015年(平成27年)の大分地区の人口は、20.5万人で本市の総人口の約42.9%を占めています。2045年(令和27年)の人口は、18.6万人まで減少する見込みで、減少率は約9.5%となっています。

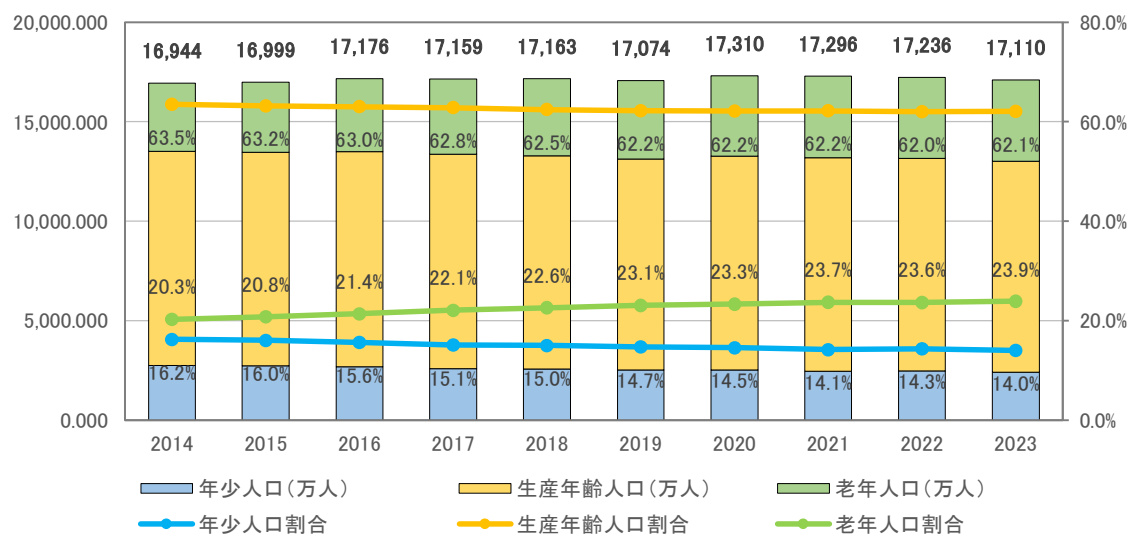


資料：大分市人口ビジョン(令和元年度修正版)

図-1.1 大分地区の人口推移

(2) 滝尾・森岡校区の人口推移

滝尾・森岡校区の2023年(令和5年)の人口は、2014年(平成26年)と比較して166人増加しており、増加率は約1.0%となっています。老年人口割合が増加する一方で、生産年齢人口割合と年少人口割合はともに減少傾向にあり、少子化が進んでいます。



資料：住民基本台帳(各年9月末)

図-1.2 滝尾・森岡校区の人口推移

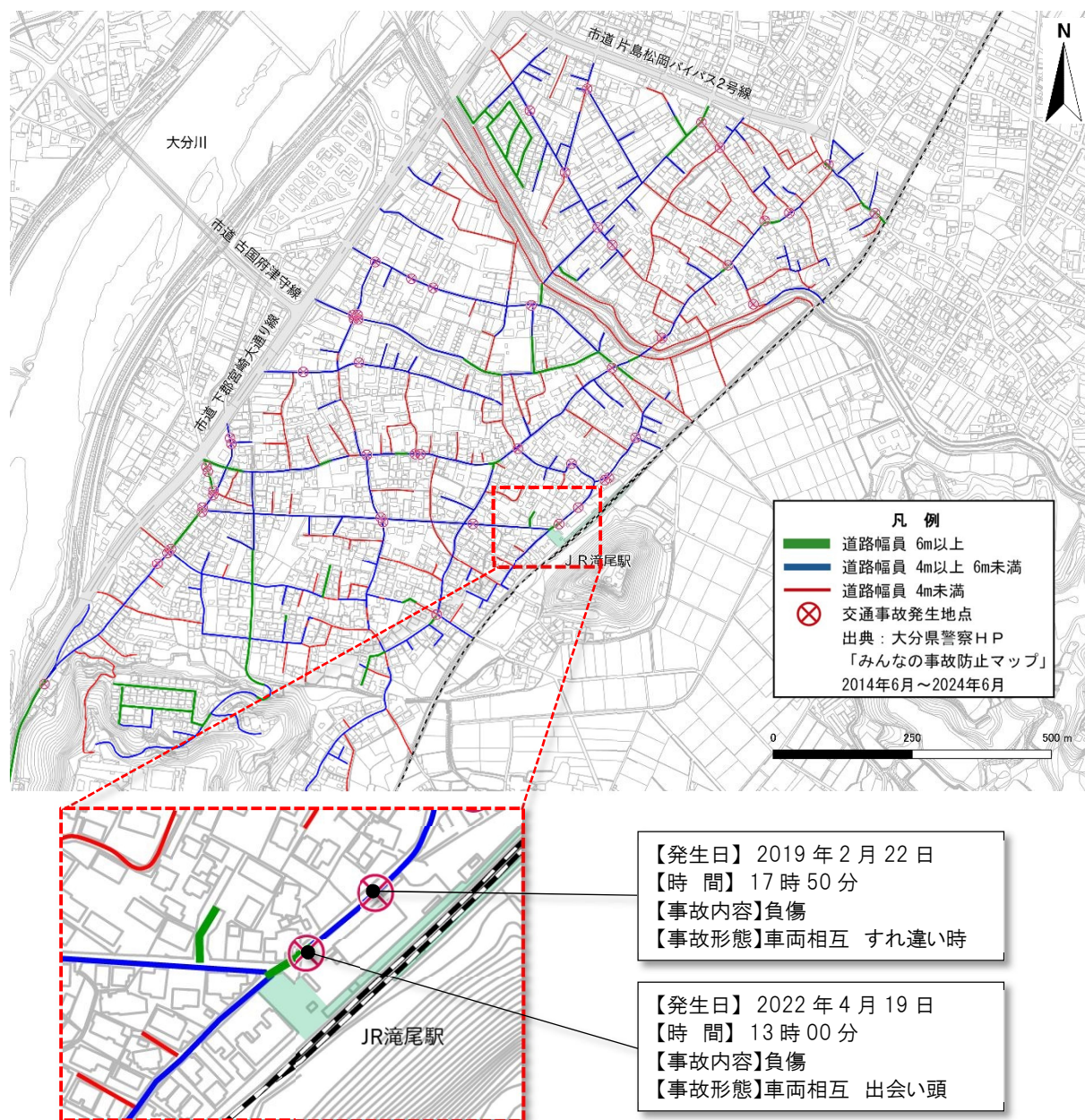
1-2. 交通環境

(1) 道路環境

基本構想の区域内(以下、「滝尾駅周辺地区」という)の主要な道路ネットワークは、市道下郡宮崎大通り線(都市計画道路萩原鬼崎線)や、市道片島松岡バイパス2号線(都市計画道路片島松岡線)を中心に構成されています。

JR滝尾駅周辺の道路幅員を見てみると、4m未満の狭あい道路が多く、次いで4m以上6m未満の道路が多くなっています。そのほか、交通事故が発生しやすい地点も多くみられます。

JR滝尾駅前に接続している道路の多くは4m以上6m未満の幅員であり、駅前周辺でも交通事故が発生しています。



資料：おおいたマップ、大分県警察 HP(2014年6月～2024年6月)

図-1.3 道路ネットワークの状況

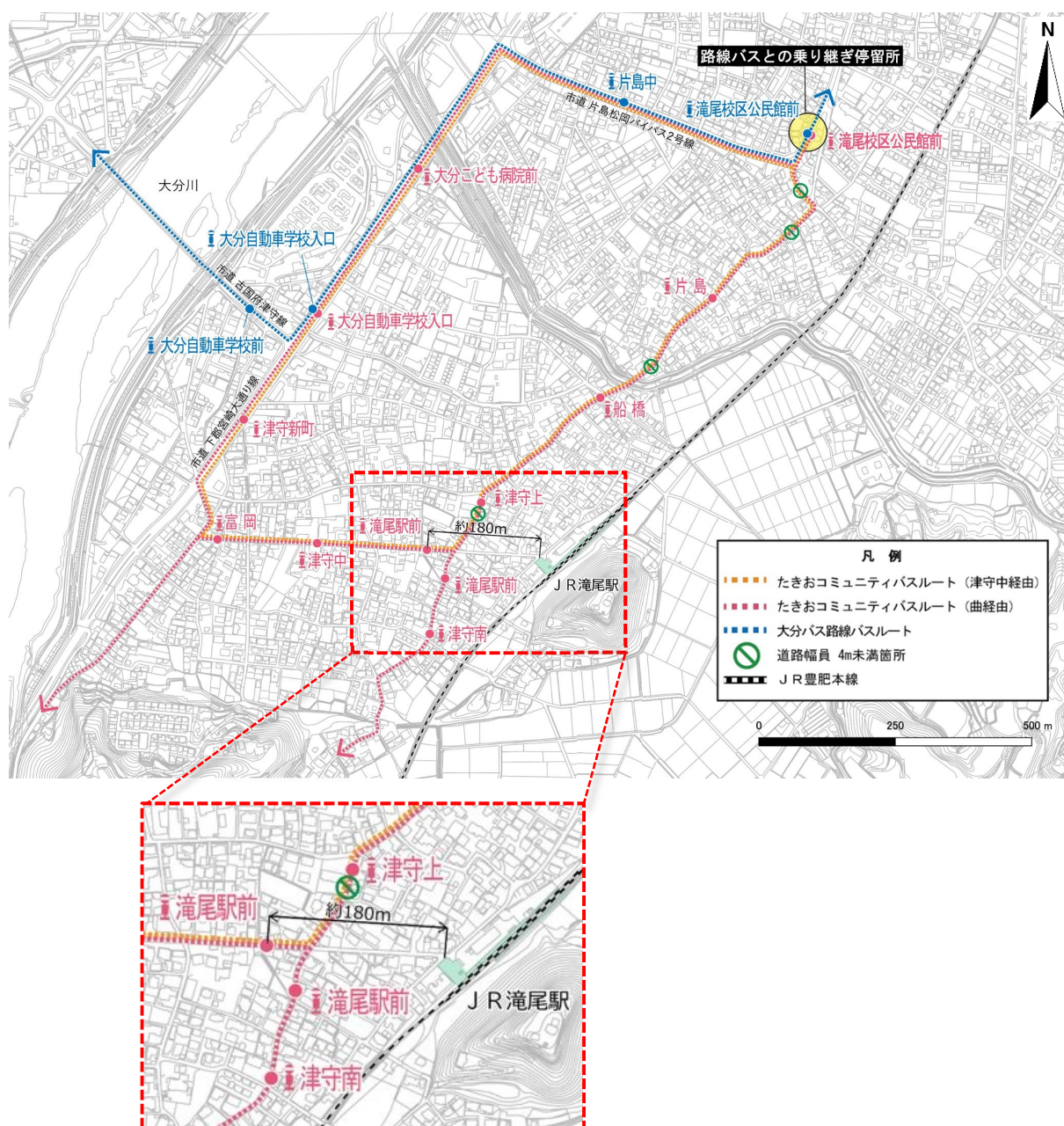
(2) 公共交通ネットワーク

公共交通ネットワークについては、豊肥本線はJR滝尾駅を経由し、上りがJR大分駅方面、下りがJR熊本駅方面へと結ばれています。

路線バスは、市道下郡宮崎大通り線や市道片島松岡バイパス2号線を運行していますが、JR滝尾駅とは接続されていません。

また、たきおコミュニティバスは、滝尾駅周辺地区内を運行していますが、こちらもJR滝尾駅とは接続されていません。

なお、JR滝尾駅の最寄りのコミュニティバス停留所までは約180mの距離があります。



資料：大分市 HP、大分バス時刻表(2024 年 4 月)

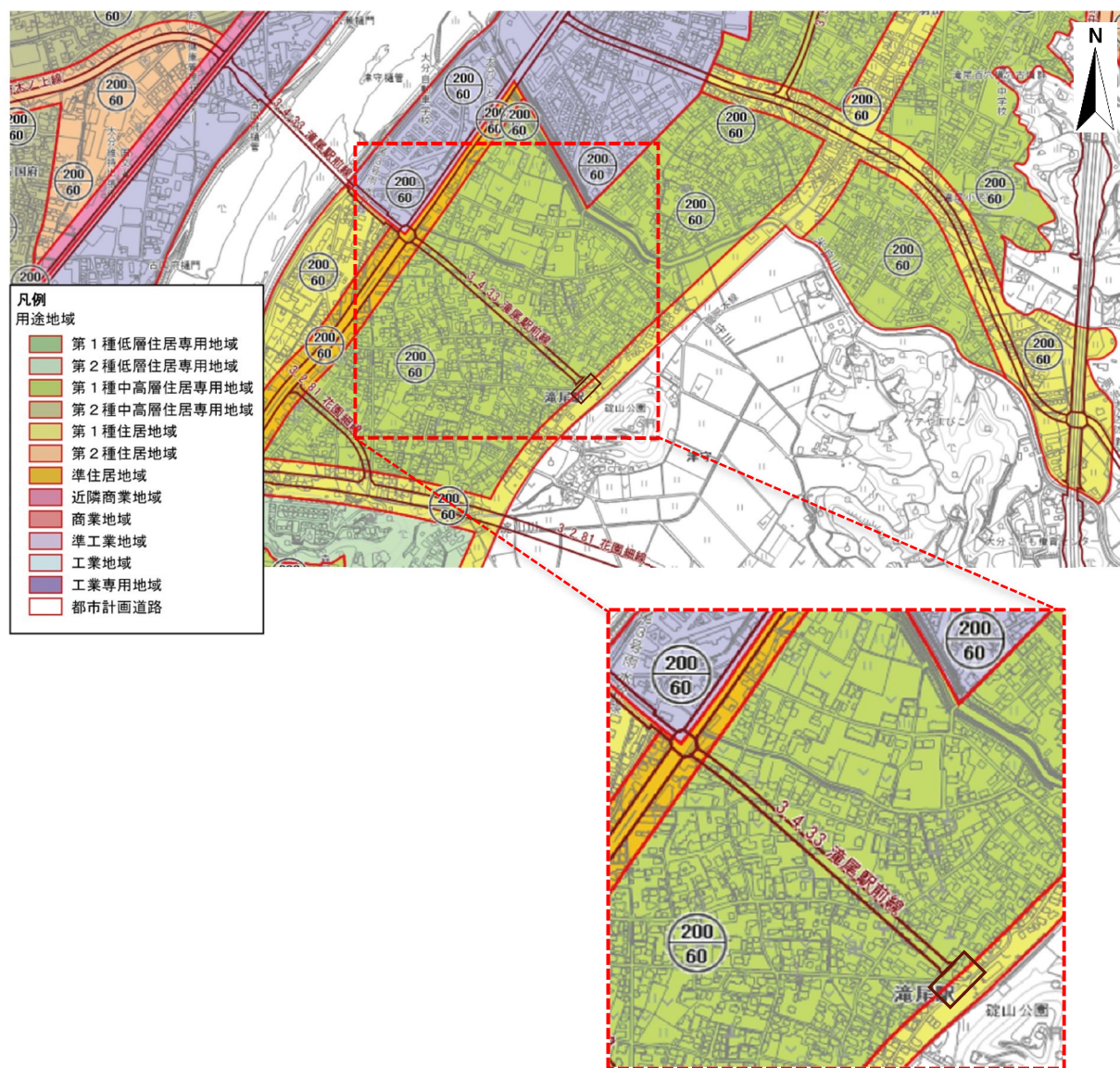
図-1.4 公共交通ネットワークの状況

1-3. 都市計画法規制（用途地域）の状況

滝尾駅周辺地区の用途地域は、JR滝尾駅の北西側の住宅地には主に第1種中高層住居専用地域が指定されており、豊肥本線沿線には、第1種住居地域が指定されています。

2024年(令和6年)3月25日に告示された都市計画の変更では、(都)滝尾駅前線及び滝尾駅前広場の沿道30mにおいて、都市計画道路等の整備後の土地利用を誘導するため、第1種中高層住居専用地域から第1種住居地域に変更され、店舗や事務所などの建築制限が緩和されました。

●2024 年(令和 6 年)2 月の状況



資料:おおいのマップ(2024 年 2 月時点)

図-1.5 用途地域の指定状況(変更前)

●2024 年(令和 6 年)4 月の状況

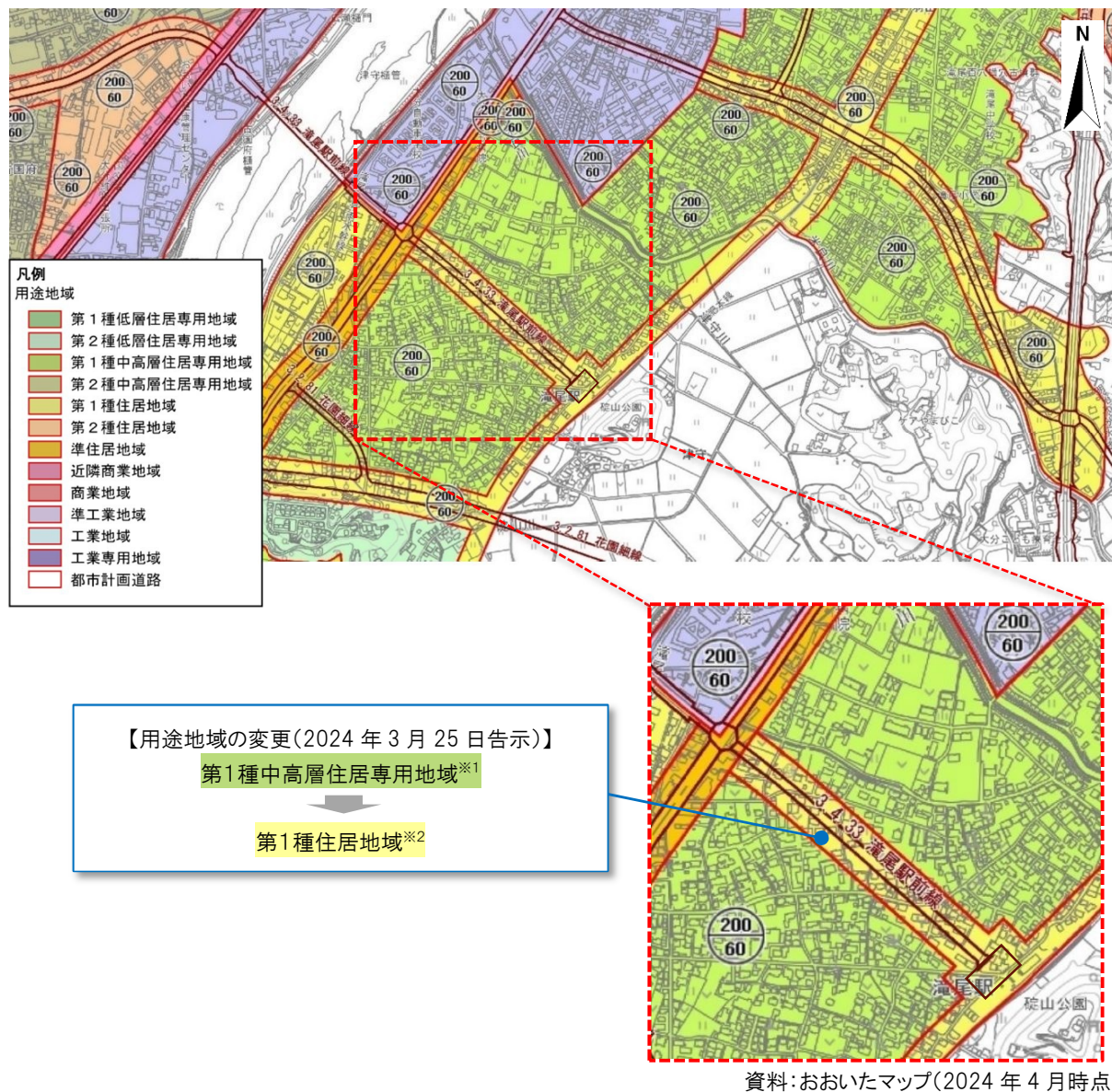


図-1.6 用途地域の指定状況(変更後[2024 年 3 月 25 日告示 都市計画変更])

※1 第1種中高層住居専用地域:

主に中高層住宅の良好な環境を守るための地域です。

病院、大学、500 m²までの一定の店舗(日用品販売店・喫茶店・物販店舗などに限る)などが建てられます。

※2 第1種住居地域:

住居の環境を守るための地域です。

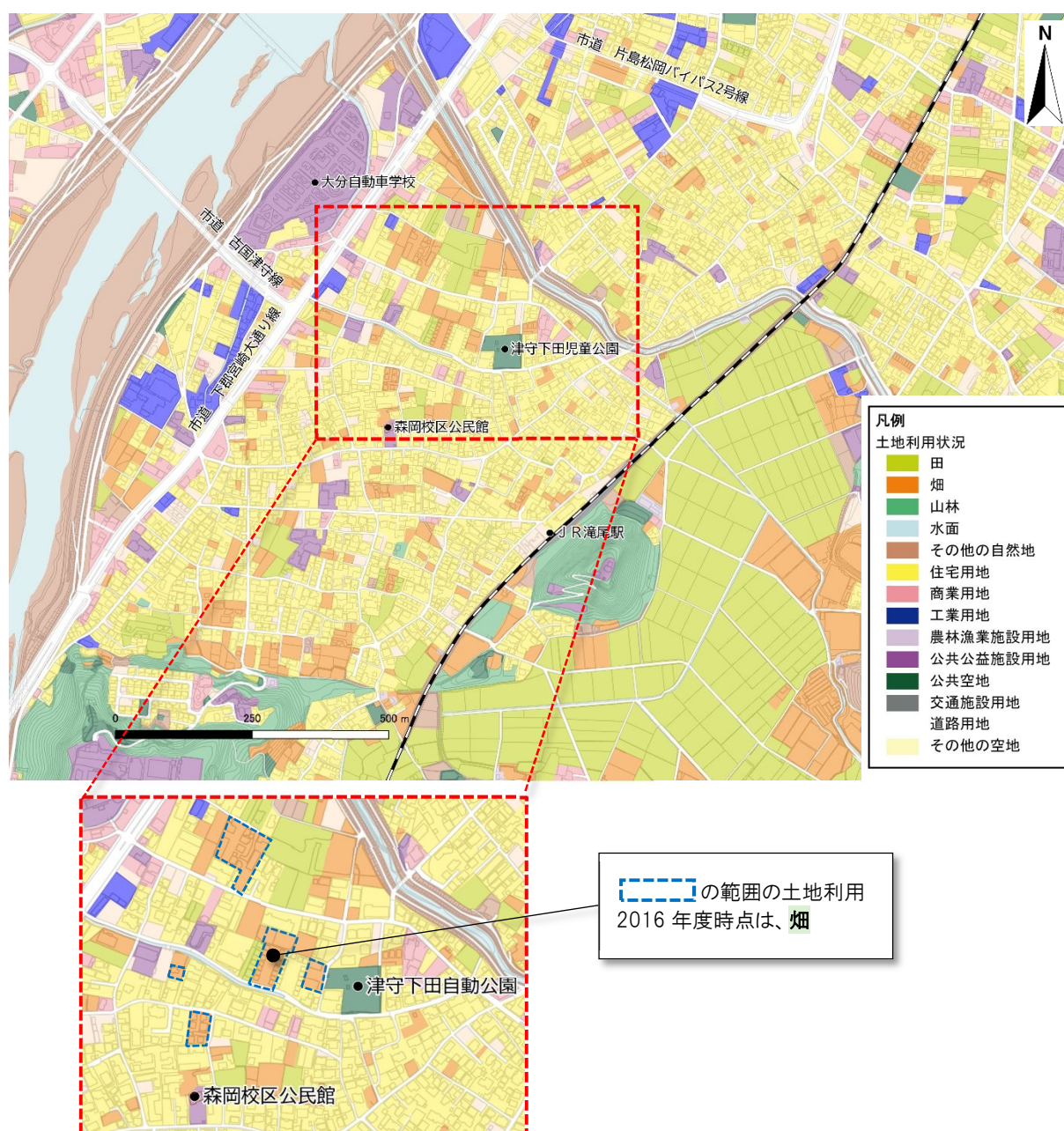
3,000 m²までの店舗、事務所、ホテルなどが建てられます。

1-4. 土地利用の状況

JR滝尾駅の北西側をはじめ、滝尾駅周辺地区のほとんどは住宅用地となっており、駅の南東側は市街化調整区域※³で、耕作地としての土地利用が主体となっています。また、商業用地は、市道下郡宮崎大通り線沿いに多く見られます。

2016年度(平成28年度)と2022年度(令和4年度)の土地利用現況を比較すると、滝尾駅周辺地区において、田畑から住宅用地への転用が進んでいます。この傾向から、都心部との近接性や、落ち着いた住環境などを求めて、滝尾駅周辺地区内の住宅開発が進行している状況が見受けられます。

●2016 年度(平成 28 年度)



資料:都市計画基礎調査(2016 年度)

図-1.7 土地利用現況(2016 年度)

●2022 年度(令和 4 年度)



資料：都市計画基礎調査（2022 年度）

図-1.8 土地利用現況(2022 年度)

※3 市街化調整区域：

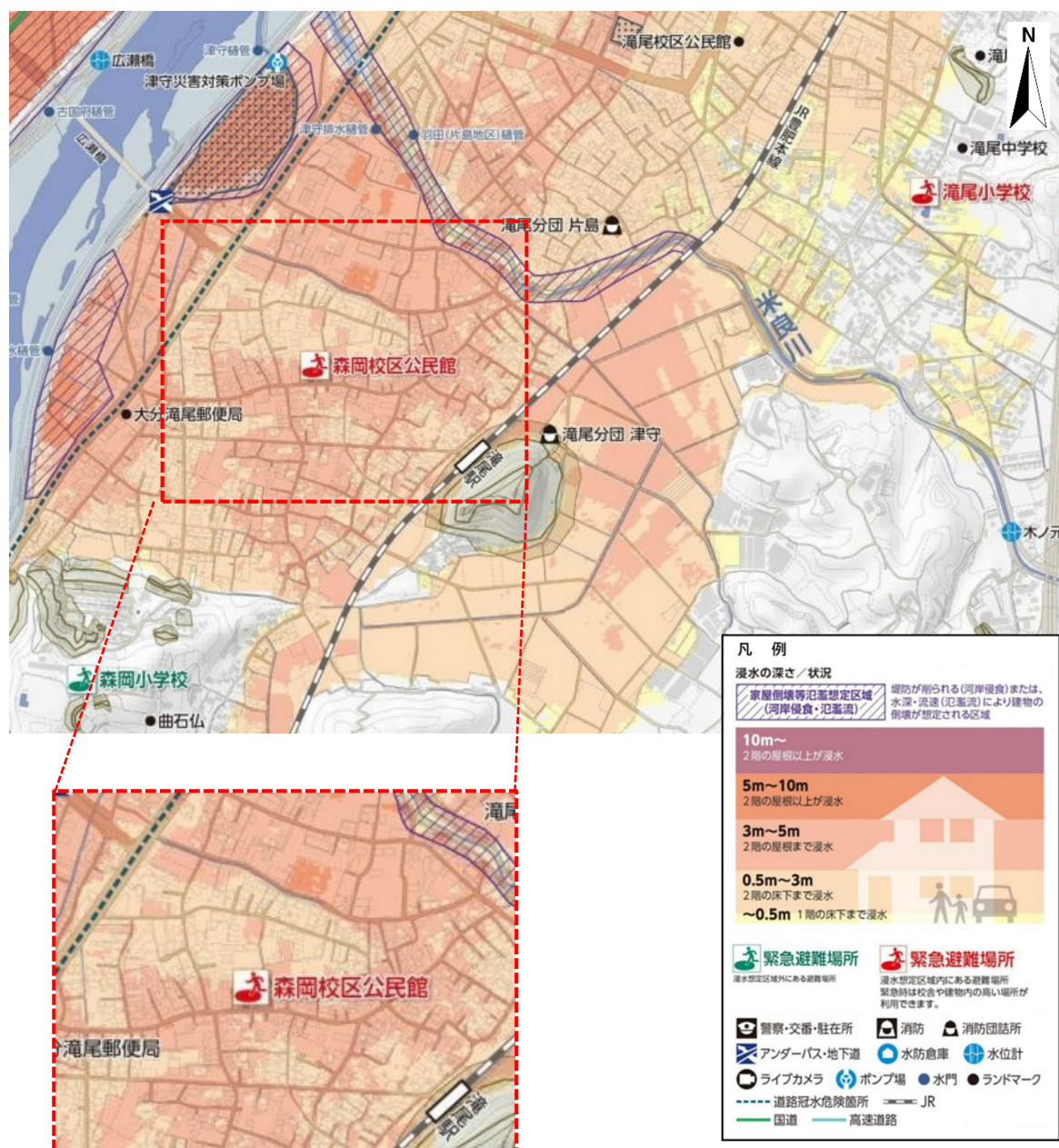
市街化を抑制する区域を指し、用途地域の指定はありません。

1-5. ハザードエリアの状況

(1) 洪水浸水想定区域

洪水浸水想定区域(想定最大規模※4)は、滝尾駅周辺地区のほぼ全域にわたっており、洪水時には3m～5mの浸水(2階の屋根まで浸水)が想定されています。

一級河川大分川沿岸や大分川水系米良川沿岸では、「家屋倒壊等氾濫想定区域」が指定されている区域があります。



資料：大分市ホームページ(洪水ハザードマップ)

図-1.9 洪水浸水想定(想定最大規模)の状況

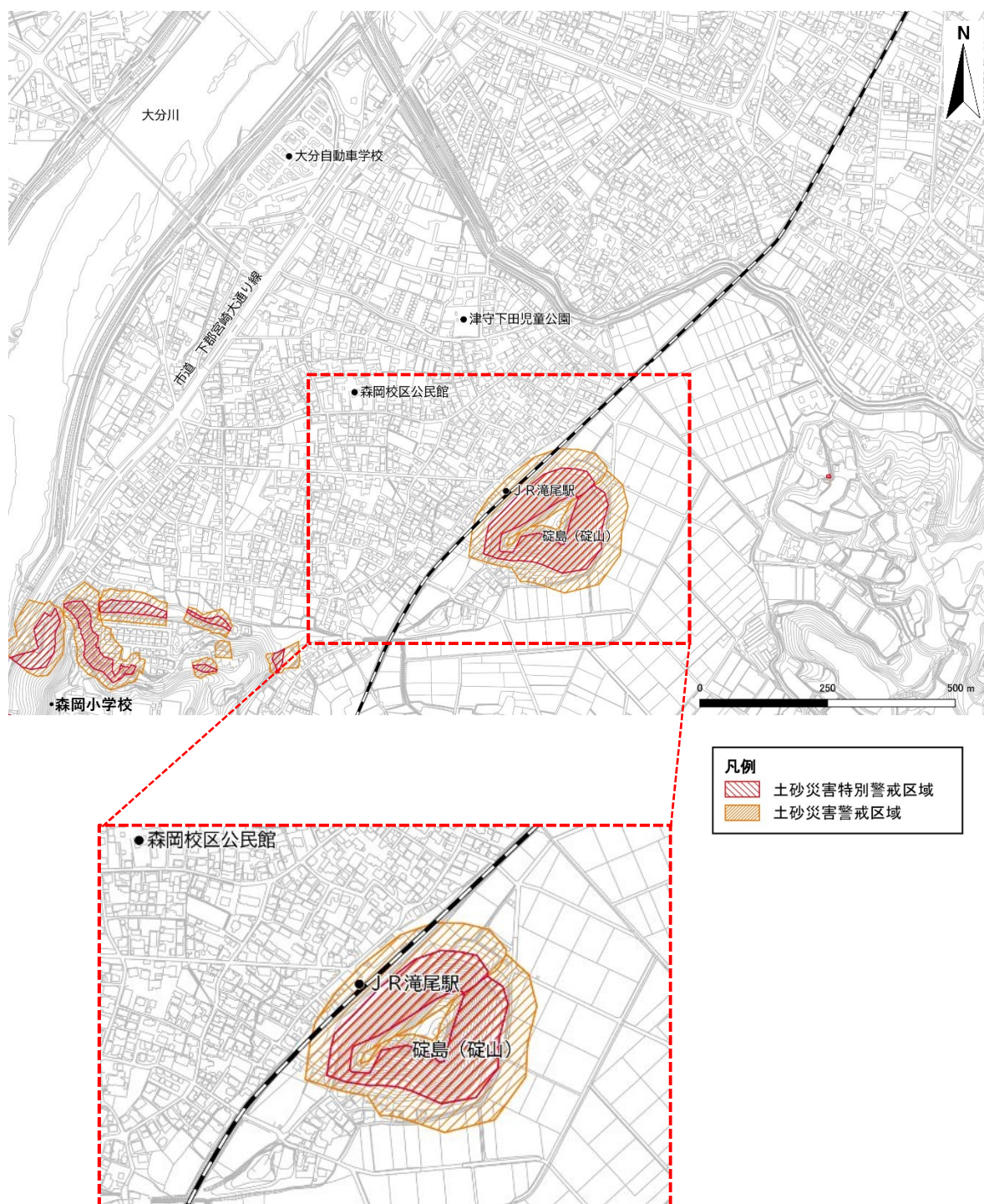
※4 想定最大規模：

1000年に1回程度の発生が想定されている降雨規模(想定し得る最大規模の降雨)。

1000年毎に1回発生する周期的な降雨ではなく、1年の間に発生する確率が1/1000(0.1%)以下の降雨です。

(2) 土砂災害特別警戒区域等

土砂災害に関するハザードエリアは、碓島(碓山)及び森岡小学校周辺にまとまって、指定されています。



資料: 大分市土砂災害に関するハザードエリア

図-1.10 土砂災害に関するハザードエリアの状況

1-6. 歴史文化資源の状況

滝尾駅周辺地区には、県指定文化財である曲石仏付双塔(五輪塔)・磨崖連碑※⁵をはじめ、参勤交代のために整備された旧肥後街道等の歴史文化資源が点在しています。

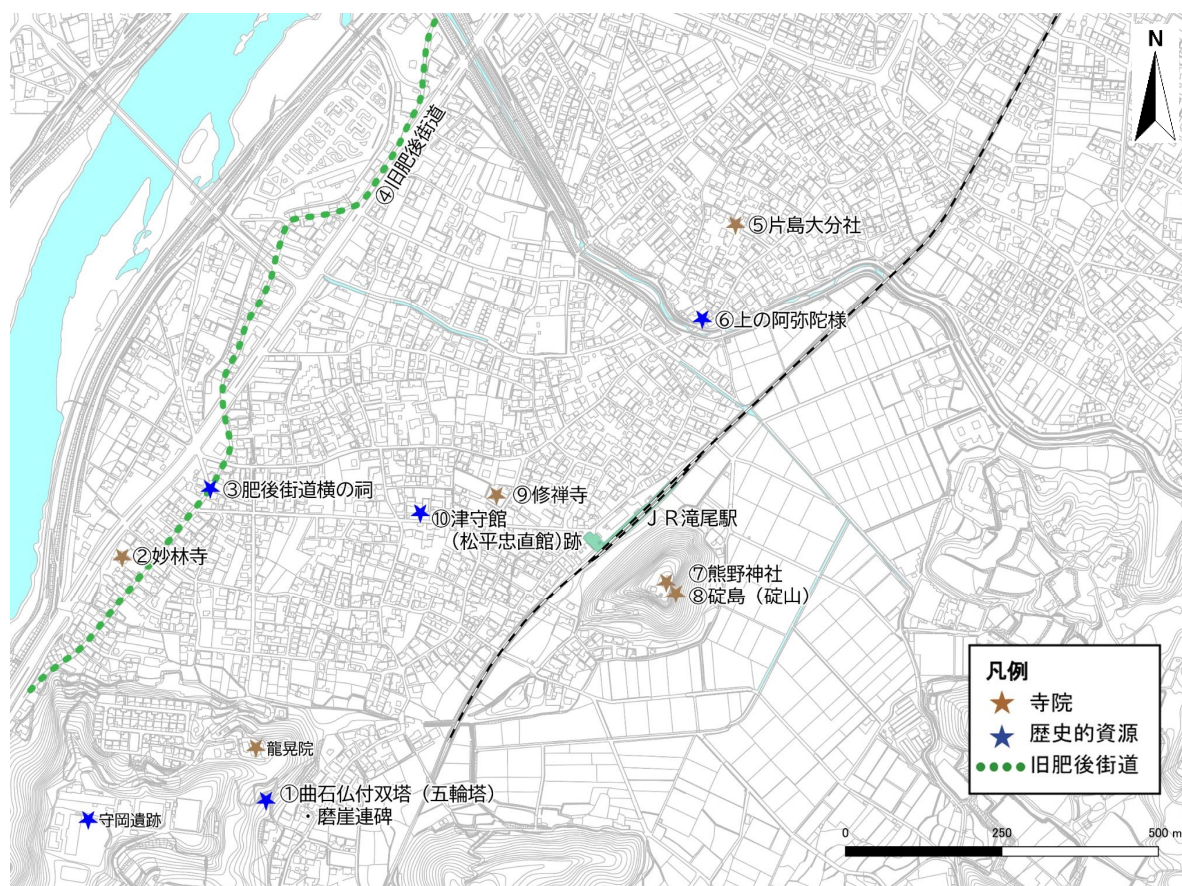
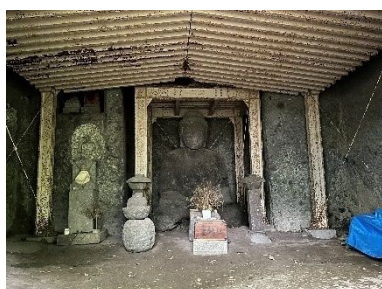


図-1.11 歴史文化資源



①曲石仏付双塔(五輪塔)・磨崖連碑※5



②妙林寺



③肥後街道横の祠



④旧肥後街道



⑤片島大分社



⑥上の阿弥陀様



⑦熊野神社



⑧碓島(碓山)



⑨修禅寺



⑩津守館(松平忠直館)跡

※5 曲石仏付双塔(五輪塔)・磨崖連碑【県指定文化財】:

森岡丘陵の中腹南面2ヶ所の石窟に彫られている。

最大の石窟には像高約3mの丸彫りの伝釈迦如来像が安置され、入り口には持国天、多聞天が彫られており、もう一方の石窟には三尊像が彫られている。

平安時代末期から室町時代に造立されたものと考えられる。

伝釈迦如来像は寄木造の手法をとっており、石仏では例のないものである。

2. 滝尾駅の状況

2-1. 鉄道の利用状況

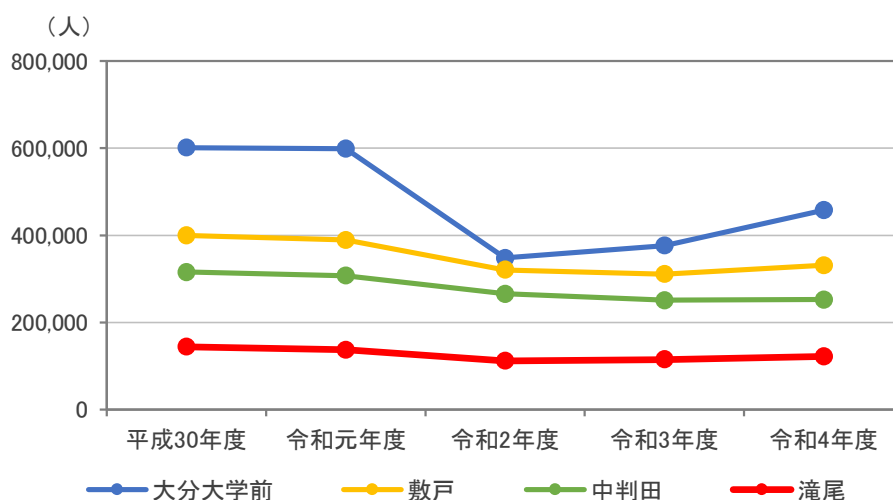
JR滝尾駅は、大分市内で4番目に乗車人員が少なく、2022年度(令和4年度)における乗車人員は121,910人、日平均乗車人員は334人です。

乗車人員の推移を見ると、2018年度(平成30年度)から減少傾向にあり、2022年度(令和4年度)は2018年度(平成30年度)と比較して約15%減少しています。

駅名	路線	年間乗車人員(人)				
		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
大分	日豊本線	6,959,455	6,810,900	4,836,250	5,009,260	5,630,855
大在	日豊本線	794,970	803,000	631,450	652,985	719,780
鶴崎	日豊本線	714,670	701,530	564,290	562,100	614,295
高城	日豊本線	642,035	627,435	497,130	513,555	538,740
坂ノ市	日豊本線	428,145	445,300	376,680	381,790	400,770
大分大学前	豊肥本線	600,790	598,235	347,845	376,315	457,710
敷戸	豊肥本線	399,310	389,090	320,835	310,615	331,055
中判田	豊肥本線	315,360	307,330	265,720	250,755	252,215
牧	日豊本線	263,895	265,720	224,475	225,205	235,790
南大分	久大本線	200,020	197,100	173,740	178,850	190,895
賀来	久大本線	206,225	199,655	153,665	151,840	162,790
古国府	久大本線	173,010	175,930	147,095	154,030	165,345
西大分	日豊本線	177,025	175,200	144,175	153,300	170,090
滝尾	豊肥本線	144,175	137,240	112,055	115,340	121,910
豊後国分	久大本線	124,100	122,640	95,995	98,915	106,215
幸崎	日豊本線	113,150	111,325	94,900	不明	不明
竹中	豊肥本線	不明	不明	不明	不明	不明

資料：大分市の統計(令和5年版)

図-1.12 大分市内における鉄道駅の年間乗車人員



資料：大分市の統計(令和5年版)

図-1.13 豊肥本線の各鉄道駅別乗車人員の推移(竹中駅を除く)

2-2. 滝尾駅前の交通状況

(1) 交通量調査

交通量調査は、2023年(令和5年)10月17日(火)6:30～9:30の間に実施しました。調査中、最も交通量が多かった1時間は、朝の通勤・通学時間帯である7:20～8:20の間でした。ピークの1時間(7:20～8:20)に駅前交差点を通過した自動車は268台、自転車は68台、歩行者は98人、タクシーの通行はありませんでした。駅前交差点は、電車の時間に合わせて自動車、自転車、歩行者が錯綜する危険な状態となっています。

a. 駅利用と通過の割合

① 自動車

ピークの1時間(7:20～8:20)に駅前交差点を通過した自動車268台のうち、駅を利用した自動車(送迎車)は6台(2%)となっており、通過交通が多い状況です。



図-1.14 自動車の交通量および交通状況

② 自転車

ピークの1時間(7:20～8:20)に駅前交差点を通過した自転車68台のうち、駅を利用した自転車は49台(72%)となっています。

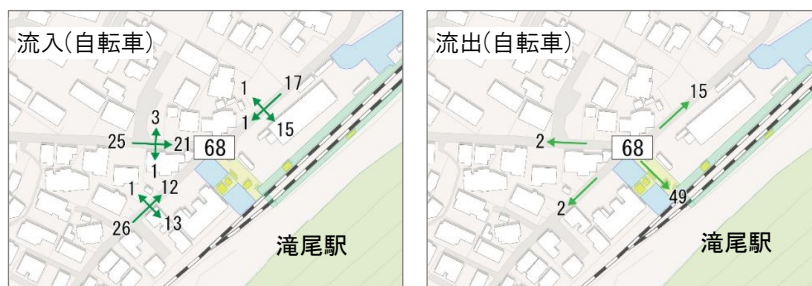


図-1.15 自転車の交通量

③ 歩行者

ピークの1時間(7:20～8:20)に駅前交差点を通過した歩行者98人のうち、駅を利用した歩行者は30人(31%)となっています。



図-1.16 歩行者の交通量および交通状況

b. 駅利用者の交通手段

ピークの1時間(7:20~8:20)にJR滝尾駅に停車する電車は、上り(JR大分駅方面)は3本、下り(JR熊本駅方面)は2本となっています。この1時間の駅利用者は、乗車利用は85人、降車利用は27人となっています。駅利用者の主な交通手段としては、乗車、降車ともに自転車・徒歩となっています。

① 乗車利用者の交通手段

乗車利用の85人の駅までの交通手段としては、自動車は6人(7%)、自転車は49人(58%)、徒歩は30人(35%)となっています。

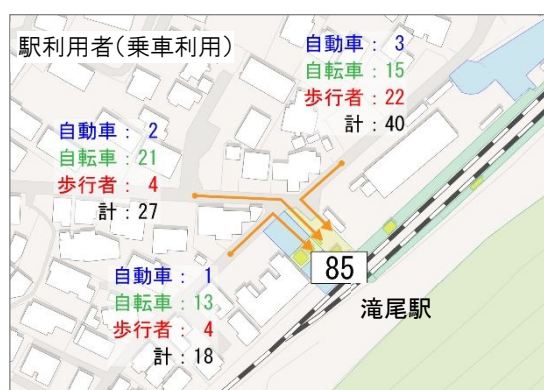


図-1.17 乗車利用者の交通手段

② 降車利用者の交通手段

降車利用の27人の駅からの交通手段としては、自動車は0人(0%)、自転車は14人(52%)、徒歩は13人(48%)となっています。

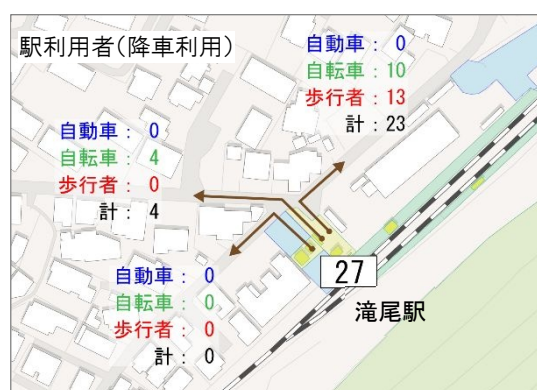


図-1.18 降車利用者の交通手段

(2) 駐輪場の利用状況

調査当日の駐輪場利用は最大で114台(9:30時点)となっています。駐輪場区域外への駐輪も見られます。

なお、調査開始時点(6:30)は、80台が駐輪されており、34台増加しています。



図-1.19 駐輪場の利用状況

2-3. 滝尾駅および周辺の現地状況

現在のJR滝尾駅は無人駅で、改札のみの簡易な駅舎が設置されています。駅前広場は整備されておらず、駅前広場の機能としては、駐輪場のみとなっています。

駅構内、駅周辺の機能および周辺道路等の現地状況について、下記のとおり整理します。

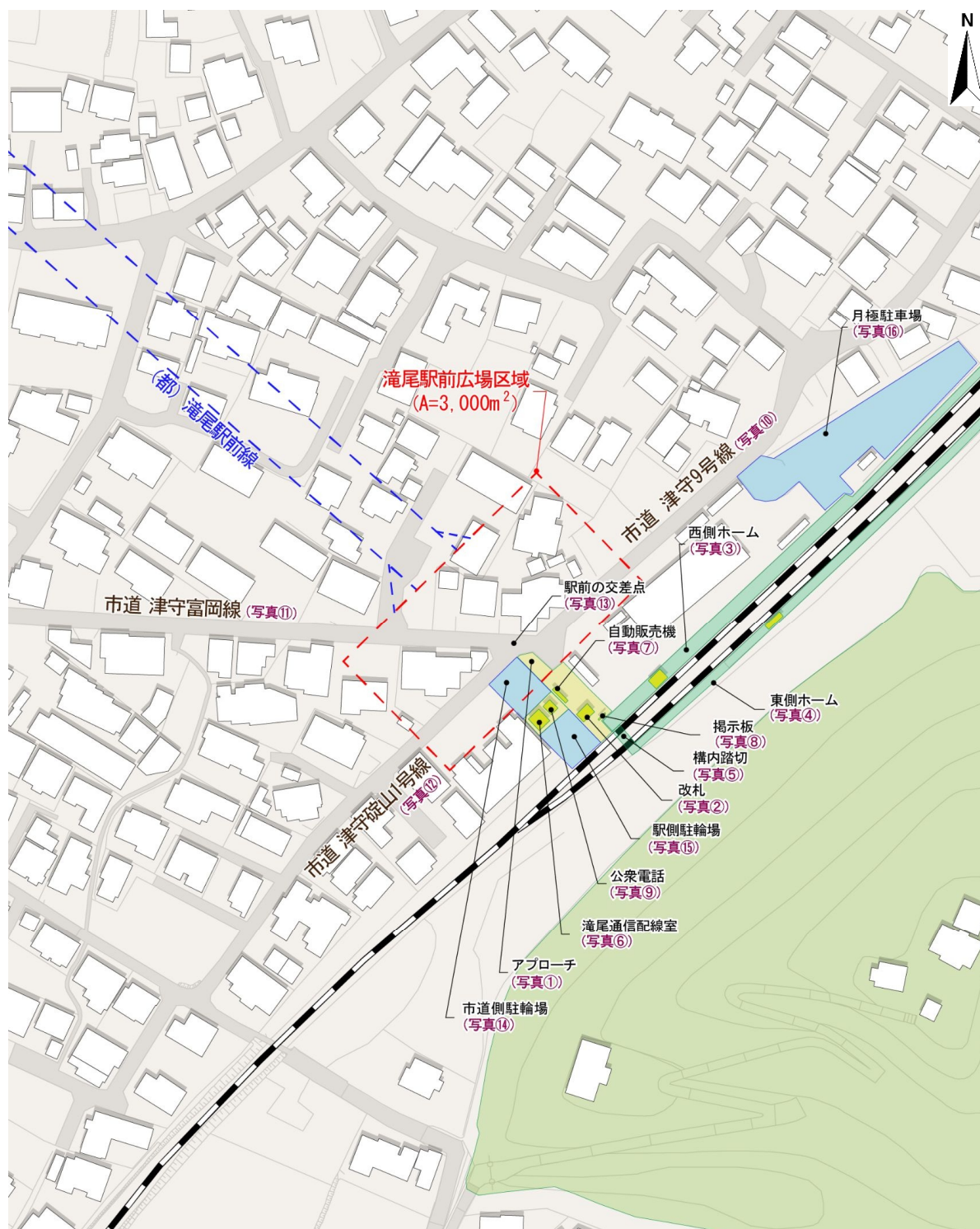


図-1.20 JR 滝尾駅および周辺の現地状況

駅構内の機能

写真①(アプローチ)



JR 滝尾駅の改札までにはアプローチがあります。

写真②(改札)



現在は無人駅として運用されており、改札のみの簡易な駅舎となっています。

写真③(西側ホーム)



駅構造は、相対式ホーム2面2線を有する地上駅となっています。ホームには、屋根付きの待合所(5人程度利用可能)があります。

写真④(東側ホーム)



屋根付きの待合所(5人程度利用可能)があります。

写真⑤(構内踏切)



互いのホームは構内踏切で連絡されており、改札から東側のホームに行くためには線路を横断する必要があります。

写真⑥(滝尾通信配線室)



JR 滝尾駅の通信設備などを収容した建物があります。

写真⑦(自動販売機)



自動販売機が設置されています。

写真⑧(掲示板)



掲示板が設置されています。

写真⑨(公衆電話)



公衆電話ボックスがあります。周辺が舗装されておらず、使いにくい状況となっています。

周辺道路

写真⑩(市道 津守9号線)



幅員 4.0m以上 6.0m未満となっています。

写真⑪(市道 津守富岡線)



幅員 4.0m以上 6.0m未満となっています。

写真⑫(市道 津守碓山1号線)



幅員 4.0m以上 6.0m未満となっていますが、その先が狭あいになっています。

写真⑬(駅前交差点)



駅前広場の計画区域内には、3つの市道が交わる交差点があります。

駅周辺の機能

写真⑭(市道側駐輪場)



約40台の自転車が収容可能となっています。

写真⑮(駅側駐輪場)



約65台の自転車が収容可能となっています。

写真⑯(月極駐車場)



JR 滝尾駅から約100m離れた位置に月極駐車場(33台分)があります。

3. 市民意向の把握

地域住民の意見を反映するため、ワークショップ(全2回)を開催しました。

また、自治会長、滝尾地区連合自治会や地元代表者などで構成した地元会議を開催し、意見交換を行いました。

地域住民より出された意見の内容は下記の通りです。

(1) 地域住民が認識する問題点

【交通】

- 駐車場がない。
- 駐輪場の管理が行き届いてない。
(放置自転車)
- 駐輪場に屋根がなく、雨で濡れる。
- バス停がなく、バスとの乗り換えがしづらい。
- 車の乗降スペースがなく、送迎ににくい。

【拠点】

- 野菜等を直売できる場所がない。
- 駅の近くに会社がない。
- 駅の近くに保育園等の子育て支援機能がない。
- 近くで遊んでいるときにちょっと食べたい。
- 駅の近くに買い物できる場所がない。

【交流】

- 駅前でゆっくりするスペースがない。
- イベントや情報発信等の自由に使える空間がない。
- 子どもの遊具やこどもルーム、育児支援施設がない。

【景観】

- ブロンズ像や樹木等、地区をイメージするシンボルがない。
- にぎわいがなく、夜間に暗いなど景観的にさみしい。

【サービス】

- 時計がない。
- トイレがない。

【防災】

- 街灯が少なく、駅周辺が暗い。
- 災害時の備蓄倉庫がない。
- 駅周辺の道路が狭く、緊急車両が入りにくい。

(2) 地域住民が駅前広場に求めること(ニーズ)

【前広場で実際にしたいこと】

- 子どもたちに青空授業がしたい。
- 子どもと広場で遊びたい。
- 簡単なイベントがしたい。
- フリーマーケットなどのイベントがしたい。
- ドックランで犬を遊ばせたい。
- 散歩したい。
- 友達と会ったり集まったりして話したい。
- 移動販売など
(朝市などを開催して売り買いしたい。)